

創立60周年に見つめなおす「ふるさときんめい」

加賀市立金明公民館

〔金明地区の概要〕

金明地区は加賀市の北側、海岸線に位置し、八町からなる地域です。外周約15・2キロメートル、面積約6・9平方キロメートルで市の面積の2・3%を占めています。平成三十年一月現在七七〇世帯、二〇〇〇人が住み、市の人口の3・1%を占めています。



加賀市立金明地区会館（金明公民館）

地域は八つの町（小塩辻、大島、千崎、塩浜、篠原、篠原新、野田宮地）を金明地区とし、そのうち四町が海沿いに面する（海拔5m～10m）、なだらかな台地（海拔10m～30m未満）に田畑や梨畑があり、八町は田園を挟んで等距離でほぼ中心の田園地帯に小学校と保育園、その隣に公民館が隣接している。

前年度利用者数は約4,832人となっています。

〔金明竹〕国の天然記念物

金明地区の名前の由来は、真竹の一部が突然変異により発生し、明治天皇により命名され、昭和二年に国の天然記念物に指定されている「しのはらのきんめいちく」からきています。

金明竹保存会（篠原町）で間引き作業や、雪つり、七夕まつり（育成地）を実施し保存活動を行っています。

昭和三十三年九月に周辺三校が統合し「金明小学校」が開校し、金明地区が誕生した。そして平成三十年に金明地区創立六十周年を迎えました。



〔金明竹〕の雪吊り作業をする保存会



黄金色の幹と筋模様の葉が特徴の金明竹

〔公民館の取り組み〕

金明公民館の中にまちづくり推進協議会が設置されています。地区の各種団体と関係機関から成る組織は約八十名で構成されており、四つの部会に分かれています。それぞれの行事等を運営しています。その中から取り組み事例として五点の活動をご紹介します。

一、新成人と語る会

主催は保健部です。毎年四月の第一日曜日に開催される加賀市成人式にあわせて式典を済ませた後、食事をしないで公民館に集まり、午後から開催しています。

会は、一人暮らしをする子息の健康や食生活を思う親御さんの気持ちの形となり、平成十九年から金明小学校卒業生を対象に毎年開催しています。加賀市内では金明地区だけが実施している特色ある行事となっています。

会は同級生や当時の六年生担任との再会、当時の小学校行事のビデオの放映等や、近況報告に小学校校歌斉唱など。当時の給食を提供し、会食後には食生活への関心と健康管理の大切さを保健部長が話し考える機会としています。

また地区の良さを再確認し関心を深めることにより、地域活動への参加のきっかけ作りにもなっています。

会を通じて、郷土愛を醸成することで金明竹のようにしっかりと



「新成人と語る会」模様 (H30.4.1)

地域に根付き将来地域のリーダーとして活躍してほしいという願いが込められた事業となっております、間引きした金明竹の一節を記念品として贈呈しています。会は約8割の出席率があり、平成三十年度は全員の出席があり、和やかな会となりました。知名度も上がってきており新成人が地域の人と交流するいい機会となっております。



会館敷地内の除草作業

二、金明を語る会
金明サークルの5団体の一つで、平成5年に発足し、現在会員は、平均年齢70歳代と高齢化ですが、元気に35名が活動しています。会長が講師となり、金明地区内を中心に加賀市内外の名所旧跡めぐりで調査、研究をして郷土学習としています。また、春と秋にはピクニックや、バス研修会で県外にも行くほか、映像学習会として公民館内でDVD視聴や健康体操などの活動も有り、手芸教室に水引工芸や絵手紙とウィットに富んだ充実した内容で年間12回ほどの行事を行っています。

年一回、奉仕活動として日頃利用している公民館の除草作業や植木の剪定を行っています。
会は発足二十周年に記念誌を発刊しており、地区の歴史を学び金明のよさを再発見し、見つめ直すいい機会となっております。

三、金明地区見守り支えあい ネットワーク協議会活動

主催は環境福祉部と金明社会福祉協議会です。
会の組織はまちづくり推進協議会の全部の関係団体と機関で構成されています。
地区は毎年、福祉協力員として八町より一人の推薦者を出して市より委任状の交付を受けて活動しています。

協議会の目的は町ぐるみによる「見守り」「見回り」「支えあい」活動を通して、子どもや高齢者、障がいがある方が安全・安心の暮しができるようにすることです。
会は、子ども委員会と高齢者委員会の二つに分かれて活動をします。子ども委員会は小学校育友会役員が主に活動していますが、登下校の見回りなどは、児童の親に共働きが多いために、その活動は老人会が代わりに行っているところが多いです。
高齢者委員会は地区にいる五名の民生委員を主に、各町の一人暮らしの方などを見守り、町の区長



分科会 (各町) 模様

と情報を共有し相談なども行っています。
各委員会は役割を決め、各町の緊急時の連絡先一覧表の作成や、普段から声かけ、ご近所同士のつながりで顔が見える活動を行っています。
平成二十八年には、市の社会福祉協議会よりその取り組みが認められて、みまもり推進シンポジウムでの金明地区の事例発表を行いました。
本協議会は年一回春に全体会議を開催しており市の社会福祉協議会と共に打合せ、資料を作り今後の目標などを設定しています。

活動開始にあたり前年度末に活動報告と課題と対策について報告を行い今年度への申し送りと確認をし、次に繋がる活動としています。

四、金明クラブ

主催は教育部です。平成十四年に「ゆとり教育」完全学校週五日制の実施に伴いまちづくり推進協議会にて同年四月に発足しました。金明小学校の全児童が対象となっていて、平成三十年度は九二名の児童が元気に活動しました。実施場所は金明小学校と金明公民館に分かれて行っています。新年度初めに小学校に児童のクラブに希望の調査と振り分け作業をお願いしており、小学校と連携を図っています。

活動当初は月に二回の土曜日に活動を行ってきたが現在は年間八回の活動をしています。

クラブ講師は地域の「町の先生」と育友会が担当して、現在はドッチボール、卓球、将棋、抹茶、水引工芸、16ミリフィルム映画の6つのクラブ活動があり、年間を通して一つのクラブで活動します。

児童は活動を通じて新しい知識の習得や思考力の向上、礼儀作法などを体感し、心身の健全化がみられる活動となっています。また、活動拠点として開かれた公民館をより身近な存在になると考えています。



金明クラブ開始式(5月)

五、創立六十周年記念誌の発行

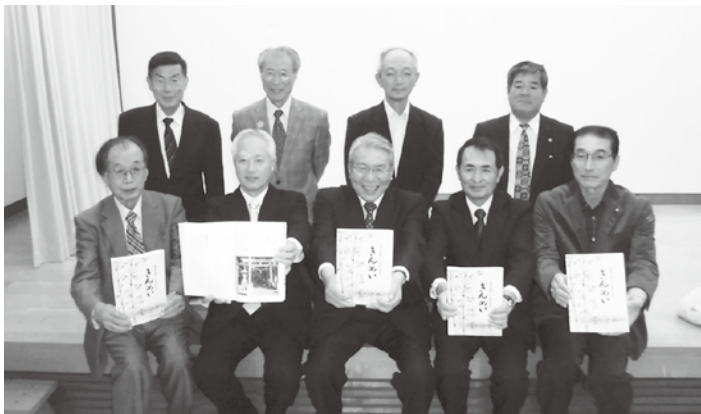
平成三十年に、地区創立六十周年を迎えるのを期に、平成二十七年に記念誌事業実行委員会を立ち上げ、平成三十年十一月に刊行しました。

金明小学校が昭和三十三年九月に開校し、同時に金明地区が誕生しました。

実行委員会は約八十名で構成されており、金明の自然・動植物、古代、中世、近世、近現代は専門の先生方に執筆をお願いし、金明地区が誕生してからの六十年にわ

たる出来事や暮らしについては、金明八町の各町の編集委員が担当し、みんなで作ったものとなりました。

金明地区の未来を考える上で貴重な史料となること、そして明るい金明・豊かな金明・活力ある金明のスローガンと共に今後のまちづくり活動に寄与する記念誌が完成しました。



記念誌刊行報告会(H30.11.25)で喜ぶ実行委員

